



# 西宮ユネスコ

2019.9 第151号

発行所：西宮ユネスコ協会（西宮市六湛寺町3-1 西宮市役所東館 人権教育推進課内 TEL 0798(35)3892・FAX 0798(36)1208）  
 発行人：古 胡 博 巳 編集人：青 木 弘 子



## 世界への扉を開くユネスコ活動

西宮市教育委員会事務局社会教育部長 上田 幹

今年も8月1日の木曜日、「バスで行く！夏休み親子みんな探検」が実施されました。夏休みの1日、親子で大阪・千里の万博跡地にある国立民族学博物館（みんな探検）を訪ねるという西宮ユネスコ協会の活動で、今回が6回目となります。当日、「時間が足りない！」と言いながら親子共々夢中で展示を回っておられる姿が見られました。みんな探検の研究たちが世界各地から収集した世界最大級の民俗学コレクションを満喫するには、1日では短すぎることでしょう。これをきっかけに是非また訪れていただきたいと思います。「異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界を築く」というみんな探検の理念は、「文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育」というユネスコ憲章前文の宣言と一致するものです。今後もたくさんの市民がみんな探検に参加し、異なる文化に触れてくださることを願っています。

我々がユネスコの名前をよく耳にするのは、世界遺産に関する報道です。7月には大阪の百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されたというニュースがありました。多様な形と大きさの古墳が歴史を物語る象徴として評価されるとともに、古墳が市街地でも保護され、またその一部は住民運動により開発をまぬがれてきたということが高く評価されたそうです。文化や自然の大切さを未来に継承するという世界遺産活動・未来遺産運動の精神が、目に見える形となって実現していることをうれしく思います。

世界寺子屋運動では、貧困・紛争などの理由で

教育を受けられない人のために途上国に学びの場と機会を提供するため、書き損じはがきや未使用の切手等の寄付を市民から募っています。どのようにしてそれがお金に変わるのか、どのようなものが寄付に該当するのか、市民の皆様からご質問いただき丁寧にお答えしていくたびに我々の活動への知識も深まっていきます。おかげでこれまでは個人的に大きな失敗のように感じられてきた年賀状の書き損じが、世界寺子屋運動に貢献できる材料として誇らしく思われるようになりました。

最後に、世界児童画展では、世界各国の子供達が描いた絵と西宮市の子供達が描いた絵が一堂に会し市民ギャラリーに展示されます。それぞれの国の文化や子供たちの願いが絵からほとぼしるかのように感じられ、大変興味深いイベントです。絵を描く時に異文化を意識することはなくても、他の国の子供たちの作品と共に展示された自らの作品を改めて見つめる時、子供達は異文化の中に存在する自分自身を感じることでしょう。展示後、西宮の子供たちの描いた作品も海を越え異国の学校に展示されるそうです。まさに子供たちが一生懸命に描いた自らの作品によって世界の扉を開く瞬間です。

西宮ユネスコ協会はこのような活動を、「自立した人生をつくるのは教育である」という信念のもと、50年以上にわたり地道に続けて来られました。この有意義な活動を通して、西宮の子供達が世界への扉を開き、異なる文化に触れることを心から願っています。

## 2019 年度通常総会開催

西宮ユネスコ協会の2019年度通常総会は5月25日(土)、西宮市職員会館3F大ホールで開催されました。来賓として田村比佐雄西宮市副市長、重松司郎教育長、上田幹社会教育部長、井上明憲人権教育推進課課長、中井崇裕人権教育推進課係長にご出席いただきました。

初めに辰馬章夫会長は「1989年に始まった世界寺子屋運動は今年30周年を迎える。『きょういくで、あしたへいく』を掲げているこの運動は、これまで130万人もの人々に学びの場をとどけてきた。それでもまだ世界には7億5千万人の非識字者や学校に通えない子どもたちがいる。世界寺子屋運動の視点は、経済的に豊かな者が貧しい人々を上から目線で助けるということではなく、同じ目標をもって共に学び合う、共に生きようという温かい心をもってすべての人々が有する基本的人権の尊重を柱とする教育支援運動だ。西宮ユ協もささやかながら、これからもその一翼を担っていきたいと考えている。

“令和”を外国に向けては“美しい調和”と訳して発信されている。今の経済情勢、国際情勢は美しい調和ではなく不協和音でもって蔓延されている。不協和音は私たちの生活にとっては百害あって一利なしであり、温かい心をもって美しい調和を奏でたい」などと話されました。次いで田村副市長、重松教育長より祝辞をいただきました。

その後、辰馬会長が議長となって、2018年度活動報告・会計および監査報告、2019年度活動計画案と予算案が審議され、すべて承認されました。



総会後のミニコンサートは、バリトンの新井俊稀氏、キーボード・藤本さえ子氏によるバリトン演奏会で、ドイツ歌曲、日本歌曲など氏の持つ幅広いジャンルの中から私たちの良く知っている懐かしい曲を集めて演奏され、100名を超える聴衆はその素晴らしい歌声に聞きほれていました。

ミニコンサート終了後、出演していただいたお二人も交えて楽しい懇親会が開かれました。

## “使用済み切手で 海外保健医療協力の道”

～アジア・アフリカに健康を届けよう～

郵便物に貼られた使用済みの切手はとかくゴミ同然に扱われがちだが、捨てずにためておけば国際協力で有効活用ができる道があるという。

日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)には、毎日段ボール箱や封筒に入った国内外の使用済み切手が全国から届く。送り主は企業や学校など、職場単位で集めた人、友人と協力して約2万枚も集めたという女子高生、毎週送ってくる高齢者の個人など。

届いた切手の山は、ボランティアが日本切手、外国切手に分類した後、切手収集を趣味とするコレクターに売却する。

2018年度に集まった使用済み切手は、個人・団体を合わせ18,844件、また書きそんじハガキや外国紙幣の寄付もあり、換金総額は約2,425万円、これをアジア・アフリカの保健医療活動に役立てることができた。

たとえば、使用済み切手約5,000枚でタンザニアでは、約1年分の看護学校の教科書代に、インドネシアでは約10,000枚で1ヶ月分の助産師学校の授業料になる。

JOCSでは、使用済み切手のほかにも書きそんじハガキや未使用切手、外国コイン・紙幣・古銭なども集めている。

JOCSの主な支援活動は次の通り。

- ・ワーカー派遣…保健医療従事者(医師、保健師、理学療法士など)を派遣
- ・奨学金事業…保健医療を学び、地域の人々のいのちを守りたいと願う現地の人たちを応援する
- ・協働プロジェクト…現地の団体と話し合い、協力して地域の人々の健康を守るための活動

### 使用済み切手の集め方

- ①封筒やハガキに貼ってある切手をまわり1cm残して切り取ってください。切手を紙からはがす必要はありません。
- ②やぶれているもの、折れたもの、まわりのギザギザが欠けているものは、取りのぞいてください。
- ③外国のものと日本のものを分けて送ってください。記念切手と通常切手を分けたり、枚数を数えたりする必要はありません。

西宮ユネスコ協会は、毎年JOCS関西事務局(大阪市北区茶屋町)に使用済み切手を届けています。



## 第75回日本ユネスコ運動 全国大会 in 東京

第75回日本ユネスコ運動全国大会は9月7日(土)・8日(日)の2日間、東京都豊島区の目白小学校体育館で開催されました。西宮ユネスコ協会から3名参加しました。

今年は「世界寺子屋運動」が始まって30年の節目の年にあたり、大会テーマは「学びを通して地域を振り返る」。これまでの世界寺子屋運動の成果を検証し、今後の民間ユネスコ活動のあるべき姿について考える大会でもありました。



第1日目の基調講演のテーマは「成人識字教育とノンフォーマル教育が持続可能な開発目標達成に果たす貢献」。講師はドイツ出身のウルリケ・ハネマン博士。成人識字やノンフォーマル教育の専門家であり、ユネスコ生涯学習研究所にも勤務されていました。難しいテーマでしたが、SDGs(持続可能な開発目標)達成のための識字教育の大切さを強調され、特に「母親の教育が増すことで、子どもの生存率が1年ごとに5%増える」と話されたのが印象的でした。

大会2日目のパネルディスカッションでは「学びを通して共生社会を作る」をテーマに、豊島区教育長の三田一則氏、NPO法人みんなのおうち代表理事の小林普子氏、旧ソ連生まれで(株)電通クリエイティブ・ディレクターのキリーロバ・ナージャ氏が在留外国人の子どもの教育問題や民間ユネスコ運動として、これから多くの課題にどう向き合えばいいのかをこれまでの現状を踏まえて話されました。

この日の基調講演は「2019年寅さんの学校論」で講師は映画監督の山田洋次氏。山田監督は、かつて、夜間中学の日々を描いた「学校」という名作を発表されています。今回の講演では「寅さんシリーズ」の中で寅さんが教育に関して語るシーンをいくつか上映されましたが、寅さんのキャラクターである自由さ奔放さで教育問題について、ずい分語られていることに驚かされました。大変感銘を受けた講演でした。2日間を振り返って、実に有意義な大会であったと思います。

第76回全国大会は2020年7月4日(土)・5日(日)の2日間、山口県宇部市で開催される予定です。

## 世界遺産シリーズ 「嵯峨天龍寺」

古胡 博巳

今年7月下旬、久しぶりに京都嵐山の天龍寺を訪れた。当日は生憎大荒れの天気だったが、夏休みに入ったこともあって、渡月橋の周辺は結構にぎわっていた。特に観光人力車は繁盛していたようだ。

天龍寺は臨済宗天龍寺派大本山の寺院。1339年、吉野で亡くなった後醍醐天皇の菩提を弔うために、足利尊氏が夢窓疎石を開山(初代住職)として創建した。考えてみれば、足利尊氏は後醍醐天皇の始めた建武の新政に反発して天皇に反旗をひるがえした人物、片や後醍醐天皇は尊氏追討の命を出した、いわば天敵の間柄だ。その菩提を弔う寺院を建立するには、これを強く勧めたといわれる夢窓国師が尊氏からいかに尊崇を受けていたかがうかがわれる。寺の建設資金を調達するため、天龍寺船という貿易船が仕立てられたことは有名だ。1994年12月、「古都京都の文化財」としてユネスコ世界文化遺産に登録されている。

天龍寺は創建当初は京都五山の第一位として栄え、寺域も広大で子院も150を数えたという。しかし、度重なる火災や戦禍(応仁の乱、禁門の変)により、創建当時の建物はすべて喪失、現存する伽藍の大部分は明治時代後半以降のもので、ただ方丈の西側にある夢窓疎石作の庭園に当初の面影が伝わるという。



「方丈裏庭の曹源池」

方丈裏庭の曹源池(そうげんち)を中心とした庭園では、周りにぎっしりと人がたむろして庭園を眺めていたが、そのほとんどは外国から来た人ようだった。書院で休んでいた人も多くは外国人で、寺院を訪れている8割以上が外国人であったように思った。

法堂には本尊釈迦三尊像が安置され、天井画の雲竜図は1997年、加山又造画伯により描きなおされたもの。八方にらみの龍の雲竜図として有名だが、並んで待っている人も多く、今回はあきらめて寺院をあとにした。



## 事務局だより

### ☆第6回 “みんなく探検”

今年の“みんなく探検”(西宮市教育委員会共催)は8月1日(木)に行われました。参加者は17名(子ども9名、保護者8名)でした。

今回は『イスラムの人たちの生活を知ろう』というテーマで、国立民族学博物館名誉教授・西宮ユ協理事の松澤員子先生ご指導のもと、同館の会員でもある河原敏博常任理事の企画立案で行われました。

まず、イスラムの人たちにかかわるもの、コーランや学習帳などを直接手に取ったり、民族衣装を身につけたりしてイスラムの生活を実感していました。



昼食後は館内見学。事前にイスラムに関するクイズを与えられていたので、子どもたちは電子ガイドを参考にしながら館内を見学して回りました。最後はセミナールームに戻ってクイズの答え合わせを行い、記念写真を撮影後、帰途につきました。

### ☆今年も高校文化祭に参加

西宮市立西宮高校は7月5日(金)、6日(土)の2日間、西宮市立西宮東高校は6日(土)に2019年度の文化祭が開催され、西宮ユ協も世界寺子屋運動の一環として、パネル展示やチラシ配布で参加しました。両校の文化祭には石井登志郎市長や重松司郎教育長も来校され、展示物などを見ていただき、石井市長からは早速、書きそんじハガキ132枚を寄贈していただきました。また、父兄の皆さんからも熱心な質問が寄せられました。

### ☆書きそんじハガキ・募金協力者(2018.4～2019.3)

#### ハガキ

[幼稚園] 門戸・鳴尾東・高須西・南甲子園・夙川・生瀬 [小学校] 北夙川・段上・上甲子園・名塩・瓦木・神原・甲東・高須西 [中学校] 今津 [個人] 長谷川京子・辻倉正治・堀兼典子・眞鍋史・秦直子・鮎川ソノエ・仮谷直子・斉藤美穂・山本晴康・前田正治・阪上みち子・高橋やよい・芦田和代・中島良子・高橋正美・津川多津子・塚本靖子・半田茂美・岡けいこ・武田雅代・新井俊稀他 [公民館] 大社・高須・段上 [支所] 甲東 [図書館] 鳴尾・北口

#### 募金

風早美保・河内幸子・ハッピーマザー・南健一郎・山口三枝子・稲垣恵美子・箕曲登美子・長谷川明子・前川一美・田中佳津子・三浦かおり・久斗真知子・佐々木康晴・濱崎節子・新田桃子・木本玲子・『気持ちです』他

世界寺子屋運動にご協力いただき有難うございました。(敬称略)

## 協会日誌

(2019年4月～  
2019年9月)

- 19. 4. 4 英語教室 第I期開講 (プレラ 4F)
- 5.18 日本ユネスコ協会連盟第48回評議員会  
(東京・朝日生命大手町ビル)
- 5.25 2019年度通常総会・会員懇親お茶の会  
「ミニコンサート」  
バリトン 新井 俊稀氏  
キーボード 藤本 さえ子氏  
(西宮市職員会館3F大ホール)
- 6.13 2019年度兵庫県ユネスコ連絡協議会総会  
(伊丹市立文化会館)
- 6.15 第70回日本ユネスコ協会連盟総会  
(東京・朝日生命大手町ビル)
- 6.30 2019年度近畿ユネスコ協議会総会  
(奈良市総合教育センター)
- 7. 5 西宮市立西宮高校文化祭参加
- ～ 6
- 7. 6 西宮市立西宮東高校文化祭参加
- 7.19 阪神間ユネスコ協会連絡会①  
(尼崎・園田学園女子大学1号館)
- 8. 1 “みんなく探検” (市教委・西宮ユ協共催)  
(吹田・国立民族学博物館)
- 8.26 近畿ブロックユネスコ活動研究会実行委員会  
(伊丹市立文化会館)
- 9. 5 英語教室 第II期開講 (プレラ 4F)
- 9. 7 第75回日本ユネスコ運動全国大会 in 東京  
～ 8 「学びを通して地域を振り返る」  
(東京・豊島区立目白小学校)
- 9.12 さくらFM“西宮ユネスコ協会紹介”の収録・放送  
(さくらFMスタジオ)
- 9.20 第40回阪神間ユネスコ協会連絡会合同事業  
「次世代へ遺すべき平和な世界  
いま伝えたい願いを歌に託して  
飛べ! ちょうちょ」  
講師 上井 滋子氏  
(NGOリズムネットワーク主宰  
JCBL地雷廃絶語り部  
(尼崎・園田学園女子大学開学30周年記念館)
- 9.29 第47回ユネスコチャリティーバザー  
(夙川公民館)
- 9.末 会報151号発行

### — 今後の催しの予定 —

- 19.10. 5 近畿ブロックユネスコ活動研究会 in 大阪  
～ 6 (堺市総合福祉会館)
- 10.30 研修見学会「茨木市立キリシタン遺物史料館」
- 11. 9 にしのみやふるさとウォーク2019
- 11.15 阪神間ユネスコ協会連絡会②
- 11. 国際理解講座
- 11.27 坂田記念セミナー
- 20. 1. 9 英語教室 第III期開講 (プレラ 4F)
- 1. 新年理事会・懇親会
- 1. 文楽鑑賞会
- 2. 第24回西宮国際交流デー
- 3. 阪神間ユネスコ協会連絡会③
- 3.17 第36回ユネスコ世界児童画展
- ～ 22
- 3.末 会報152号発行